

# Q&A 先月の技術相談から

## 木育推進拠点施設（北海道当麻町）への関わりについて

**Q:** 現在、当麻町で建設中の「木育推進拠点施設」に林産試験場が関係していることを耳にしました。どのような内容でしょうか？

**A:** 日本では、2040年頃に現在の約50%、896の自治体が、北海道においては約78%、147が若い女性の人口が半以下になる「消滅可能性都市」であるという調査結果が日本創生会議から2014年に発表されました。その年に新設された地方創生担当大臣が副本部長となる「まち・ひと・しごと創生本部」では都市部の1極集中の是正や自治体の地域存続の対策を行っています。

当麻町では、食育、花育、木育によって町民の豊かな心を育みつつ、移住者や交流人口を増やすことを推進しており、林産試験場の協力についても記載された「木でつなぐ輝くわがまち創造計画」が策定されました。これが地域再生計画として2014年度末に内閣府に承認され、今回の地方再生戦略交付金をベースとした木育推進拠点施設の建設に至りました（図1、表1）。



図1 当麻町木育推進拠点施設 鳥瞰イメージ

表1 基本データ

所在地：上川郡当麻町6条西4丁目
建築主：当麻町（設計施工一括買取事業）
設計施工：木育施設 盛永・石川・山下グループ
敷地面積：8,665.29㎡
建築面積：1,207.80㎡
延床面積：1,147.74㎡
階数：地上1階 木造 最高高：4.35 m
地域地区：法6条1項4号区域 法22条区域
冷暖房：電気ヒートポンプ+ 床暖+ 薪ストーブ
主要外部仕上：屋根・壁：ガルバリウム鋼板、樹脂モルタル 軒天：木構造現し
主要内部仕上：床：カバフローリング（町産材） 壁：強化石膏ボード+エマルジョンペイント 天井：木構造現し 構造材：町産材100%使用

### ■経緯

この木育推進拠点施設の建設と林産試験場の関わりは、2013年度から始めた廃校を利用した地域活性化拠点づくりを目的とした研究からでした。

人口減少に伴う課題は、さまざまありますが、増え続ける学校の閉校もそのひとつです。かつては地域の中心で、学校教育の場としてだけではなく、地域住民の交流や文化活動の中心となっていました。使用しない建物は老朽化の進行が早く、有効な再利用法が望まれています。

林産試験場では旭川市および近隣の町で廃校のある対象地を選択し、その地域の特産品などと木製品のマッチングを考えて、所管する教育委員会に地域活性化のために木製品の製造拠点モデルとする可否を打診しました。その研究計画に、当麻町では小学校の廃校舎を対象として好意的に対応していただきました。約3年経過し、ここまで、地域活性化に寄与した事例として、林産試験場が開発、意匠登録した木製名札ケース（図2）を、廃校で地元の社会福祉法人の職員と利用者が当麻町産材を使用して、約1,000個製造販売したのがあります。また、当麻町教育委員会と連携し、木工教室などにも協力しています。このような体制を安定、拡充するために地方創生担当大臣就任直後に発表された地方創生予算の情報に沿って、関係者で廃校の改修を含めた計画をつくりました。その後、少し方向性は変わりましたが、当麻町の積極的な対応で助成金を獲得し、地域活性化のための木育推進拠点施設の建設に至りました。



図2 木製名札ケース

## ■ 今後について

今後は、これまでの流れを引き継ぎ、地元の社会福祉法人を中心として新施設を運営するので、廃校舎については新たな利用法を考える必要があります。新施設では、町内外の子供や大人を対象に木育を実践し、ここで得た収益を光熱費を含めた運営経費と

する予定となっています。今後も林産試験場は、継続中の研究課題「地域力を高めるものづくり産業モデルの検討」において、産業、福祉、環境をキーワードとした当麻モデルの確立に関わらせていただく予定です。

(技術部 生産技術グループ 八鍬明弘)